2009年5月発行

ISSN 0917-0731

融會 YU・KWAI

●核融合科学研究会ニュース 40●

CONTENTS

核融合科学研究所長
就任のご挨拶
　小森彰夫 氏　2

核融合科学研究会
第20回講演会開催報告
「放送ふれあいの旅
　―出会う人　出会うことば」
　NHK エグゼクティブアナウンサー
　　葛西聖司 氏　2

事務局だより・編集後記　4

核融合科学研究所長　就任のご挨拶

小森 彰夫 氏

核融合科学研究会ならびに会員の皆様には、ますますご清栄のこととお慶び申し上げます。日頃よりの核融合科学研究所へのご支援に対しまして、心より厚く御礼申し上げます。

この度、平成21年４月より、核融合科学研究所の第４代所長を拝命いたしました。この場をお借りして、就任のご挨拶をさせて頂きたく存じます。

化石燃料の枯渇によるエネルギー不足の懸念、二酸化炭素排出の増大による地球温暖化など、我々を取り巻く問題は、今後、新興国の経済発展に伴いますます深刻化していくことが予想されます。このような状況の中、地球の環境に優しく、豊富なエネルギーを供給することが出来る核融合エネルギーは、是非とも実現させなければならない課題として、我が国を始め、世界的に研究開発が進められています。

私ども核融合科学研究所では、定常炉として優れた特徴を有する超伝導大型ヘリカル装置（LHD）によるヘリカルプラズマの高性能化を目指した研究と、スーパーコンピュータを駆使したLHDの実験解析ならびに広範な理論・シミュレーション科学研究を大きな軸とした研究活動を展開しております。

特に、昨年度のLHD実験では、１cc当たり1,200兆個を超える超高密度プラズマの生成と閉じ込めに成功し、超高密度プラズマによる新しい発電炉の実現に向けた方向性をさらに前進させることができました。また、6,500万度という高いイオン温度を実現した際に、プラズマ中の不純物が自動的に排出されるという、核融合炉において大変好ましい現象も発見されています。この他、高いベータ値（プラズマ圧力と磁場圧力の比）の長時間維持、定常プラズマ性能の向上など、ヘリカルプラズマの優れた特徴を次々と実証しております。学術的にも大変重要なこれらの研究成果は、核融合エネルギー実現に向けた研究を大きく前進させるものです。また、核融合研究で培われた成果を社会に還元するために、産業界、地域と連携した共同研究も幅広く展開しております。このような先端的かつ多様な研究活動を展開出来ますのも、ひとえに日頃よりの核融合科学研究会のご支援の賜物と感謝いたしております。

今後、核融合科学研究所は世界的な核融合研究の一大拠点として、フランスに建設中のITERによる燃焼プラズマの実現に積極的に協力しつつ、環状型プラズマの統一的理解に向けた学理の追求、さらには、ITERの先を見据えて、高密度・定常運転に優れたヘリカル型装置の特性を活かした実証炉の実現に向けた研究を、総合的な見地から行っていく所存であります。次代の核融合研究はもとより、核融合炉実現に向けた産業界を担う優秀な人材を育成するべく、大学院教育、若手研究者育成にもさらに注力して参ります。

厳しい経済状況の昨今ではございますが、何卒、相変わらぬご厚情、ご支援、ならびにご理解を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

末筆ではございますが、皆様のますますのご発展を祈念いたしております。

核融合科学研究会第20回講演会開催報告

講師　NHKエグゼクティブアナウンサー　葛西 聖司 氏

核融合科学研究会では、平成21年２月20日（金）まなびパーク多治見にて第20回講演会を開催いたしました。

今回の講演会では、NHKエグゼクティブアナウンサー 葛西聖司氏を講師としてお迎えしました。葛西氏は、1951年 東京生まれ、中央大学法学部卒業後、1974年NHKに入局されました。

これまでに「ひるのプレゼント」、「歌謡リクエストショー」、「ライバル日本史」、「芸能花舞台」などテレビ番組の司会、「昼の散歩道」、「クイズ疑問の館」、「サンデージョッキー」などラジオ番組の司会、大河ドラマ「独眼竜政宗」、連続テレビ小説「澪つくし」、正月ドラマ「上杉鷹山」、「加賀百万石」などのドラマの語りなど、多数の番組を担当してこられました。現在は、エグゼグティブアナウンサーとして「ラジオ深夜便」（ラジオ第一　月　夜11時20分から翌朝５時まで）、「きらめき歌謡ライブ」（ラジオ第一　水　夜８時）などを担当されています。

今回の講演会では、「放送ふれあいの旅　―出会う人　出会うことば―」と題して、葛西先生が、テレビ、ラジオの放送や取材で出会われたさまざまな方々とのふれあいから、忘れられないことばや大切な思い出をご紹介頂きました。

放送ふれあいの旅―出会う人　出会うことば

恋は危険な訪問者である。しかし人はだれも恋を待っている。恋に巡り会わない人生はむなしくさびしい―50%を超える視聴率を獲得したNHKの朝のテレビドラマ「澪つくし」のはじまりのナレーションである。今回の講演者は、このナレータを務めたNHKエグゼクティブアナウンサー葛西聖司さんである。最近は「きょうの健康Q&A」「きらめき歌謡ライブ」「ラジオ深夜便」などで活躍されている。大阪勤務も長く「道頓堀ののび太くん」とのニックネームがあるそうである。

このごろは岐阜とも縁が深くなりつつあるようである。一昨年、中島みゆきさんが「ラジオ深夜便」愛聴者で、葛西さんのファンであったことから「中島みゆきトーク&ベストヒット」という2時間半に渡る番組が実現した。その折、中島みゆきさんのコンサートを可児市文化創造センターに聞きに来られたことに始まり、今回の核融合科学研究会講演会、3月には番組収録のため瑞浪に来られるそうである（ところで、可児市文化創造センターといえば、例のダブルブッキング事件で新宿コマ劇場に向け和泉元彌さんを乗せたヘリコプターが飛び立った場所としても有名とのこと）。では、今回なぜ核融合科学研究会の講演会が実現したかというと、水谷八重子さんを通して本島所長（当時）とは旧知の間柄であったことによるそうである。葛西さんは、自然科学研究機構主催のシンポジウムでパネルディスカッションの司会を務めるなど、すでに核融合とも浅からぬ縁ができているようである。

さて、葛西さんは仕事上、様々な人と出会う。当日の講演会では、これまで縁のあった様々な人のエピソードが紹介された。その中の幾つかを紹介する。健康志向の昨今、まずは笑いについて。笑うことは健康によい。実際、ナチュラルキラー細胞が増え免疫効果が上がることが科学的に証明されている。医者の伊丹仁朗さん、笑うことで、ガンの予防または治癒を考えている。重病の患者さんに、人を笑わせる一言のコメントを考えさせる。精神的にどん底の患者さん、最初は何もできないが、実際に考えることで延命作用があることが立証されているとのこと。

次は井村雅代コーチ。スパルタ教育で日本のシンクロナイズドスイミングをメダルに導いた立役者である。西洋の模倣ではない日本の伝統に基づいたシンクロで日本を世界のトップレベルに育て上げた、その偉業は彼女の強烈な独立独歩の姿勢に負うところが大きいとのこと。平成20年、北京オリンピックでは中国のコーチに就任、中国にメダルをもたらした。このことで国賊とまで非難

もされた。しかし、彼女の思いは「日本のシンクロを世界に広めること」にあったそうである。

冒頭で述べた「澪（みお）つくし」からは、沢口靖子さん。葛西さん曰く、実際に目にする彼女は「想像を超える美しさ」とのこと。あまりに奇麗な女優さんの場合、若い女性の支持が得られずドラマの人気は出ないとのこと。ではなぜ、50%を超える驚異の視聴率を獲得できたか。肩を震わせて泣くシーン。「薫（沢口靖子）は悲しかった」とのナレーションが追加された。笑っているように見えるから。皆応援せずにはいられなかったとのこと。ちなみに澪つくしのナレータを担当していた間、純愛ドラマのイメージが崩れるといけないとの理由から、葛西さんはニュースなどの番組出演は禁止され半年間「みをかくし」ていたそうである。

大河ドラマ「独眼竜政宗」からは勝新太郎さん。ここでは秀吉を演じ番組途中からの登場。政宗役の渡辺謙さんが挨拶に楽屋に行こうとすると、断られた。秀吉と政宗の小田原城での初対面シーン、その緊迫感を大事にするためだったということ。ちなみに、澪つくしでは、母親役の加賀まりこさんの井村コーチ風スパルタ教育－一同緊迫・感動の舞台裏シーンもあったそうである。ところで、天才肌の勝新太郎さん、台本にない一瞬の演技がその真骨頂だったようである。秀吉臨終のシーン。皆が秀吉を見つめる。何が起きるのか、誰もが緊張感を高める。一分半の沈黙。「何か変よ」、ねね役の八千草薫さんがいう。見ると、勝さんは本当に寝ていた、という未公開シーンも残されている。

次は、茶道の千玄室さん。戦時中は特攻隊の一員だった。特攻前夜、最後に自分にできることとしてお茶に思い至った。だが、幸い彼は飛行機の故障で救われた。帰国後、父の千宗室に進駐軍が茶道の見聞に訪ねてきた。はじめ威丈高だった進駐軍が正座し畏まるのを目の当たりにした。敗戦はしても偉大な伝統文化は畏敬に値する。「ただ一碗の茶を囲む」のに、敵・味方、人として違いはない。この事実に気がついた。千玄室さんは茶道への態度を改め、生涯の仕事に選んだそうである。現在は、世界平和につながる日本文化として茶道の国際的な普及に努めている。

ところで、極限状態におかれると、人は「おかあさん」と叫ぶようである。演歌「花街の母」で有名な金田たつえさんのエピソード。舞台は北海道砂川市。子供だった金田さん、当時高級品のバナナが欲しいと母にねだる。母は一本だけバナナを買ってく

❸

れた。家まで待ちきれない金沢さん、路地に入ってバナナを差し出す母。皮ごとバナナにかぶりついた金沢さん。母は、「あっ」と叫ぶ。しばらく沈黙した後、「ごめんね」、初めてのバナナ、食べ方を知らなかった娘に謝った。初めてのバナナ、味のないバナナ、母の驚き、続く優しい母の言葉。この一瞬の出来事が、彼女の忘れられない一生の思い出だそうである。

最後に紹介されたのはどろんこの詩―障がいのある子供たちの書いた詩を集めた詩集。綴られた詩には優しい気持ちが溢れていた。優しい言葉は人の心に届く、人を動かす。様々なエピソードが紹介された講演会。笑い、スパルタ教育、名優の裏話、茶道、母の話、多岐にわたる話を結びつけていたものは「こころ」ではなかったろうか。笑い、演劇、厳正な教育、世界に通じる文化は、「こころ」から生まれるのではないだろうか。人とのつながりが薄れ、耳を疑いたくなるような事件がつづき、未曾有の不況が世界を襲う今、「モノ」を離れて「こころ」豊かな日本文化を見直してみてもよいのではないだろうか。

（文責：藤澤　彰英
核融合科学研究所　粒子加熱プラズマ研究系准教授）

事務局だより

(1) 平成21年度評議員会・総会

日　時　平成21年5月26日15時より16時
場　所　核融合科学研究所

核融合科学研究所　管理棟　4階　第一会議室
〒509－5292　土岐市下石町322-6　電話（0572）58－2222
所在地ホームページ：http://www.nifs.ac.jp/michi/index.html　JR 中央線多治見駅よりタクシーで15分弱

議題　第一号議案　平成20年度事業報告および収支決算報告について
第二号議案　平成21年度事業計画および予算（案）について
第三号議案　役員の交代・顧問の委嘱について

(2) 平成21年度　特別講演会　16時5分より17時30分

講師：筑波大学大学院　システム情報工学研究科　リスク工学専攻教授　内山洋司氏
東京工業大学工学部金属工学科卒業。東京工業大学大学院理工学研究科原子核工学専攻博士課程修了後、（財）電力中央研究所に入所。在学中にスウェーデン、シャルマース工科大学物理学科に留学。電力中央研究所在籍中に米国電力研究所の客員研究員、東京工業大学大学院客員教授を歴任。2000年4月から現職。2002年から放送大学客員教授を兼務。経済産業省総合資源エネルギー調査会、内閣府原子力委員会等における委員。エレクトロヒートセンター副会長、エネルギー・資源学会常任理事、日本工学アカデミー会員。専門はエネルギーシステム分析、技術評価、技術経済、リスク工学。「エネルギー工学と社会」（日本放送出版協会）等著書多数。

演題：「地球温暖化問題と低炭素社会の構築について（仮題）」
ヨーロッパや日本は2050年までに温室効果ガスの排出量を60～80％削減するという高い目標を掲げ、温暖化問題への取組が世界各国で始まりつつある。しかし、実効性のある対策となると、数多くの課題が残されている。講演では低炭素化社会を構築していくためには、どのような対策が求められ、その実効性がどの程度のものであるかについて解説する。

編集後記

平素は核融合科学研究会の活動に格別のご高配を賜りましてありがとうございます。平成21年度会費納入のお知らせをいたしましたところ、早速にお取り計らいくださいまして誠にありがとうございます。

会員の皆様に、厳しき情勢にもかかわらず、当研究会の活動をご理解いただき、ご支援いただいておりますこと、感謝申し上げます。

また、核融合科学研究所では平成21年4月より、第四代所長として小森彰夫氏が就任いたしております。

今後とも、当研究会の活動ならびに核融合科学研究所への一層のご理解・ご支援をよろしくお願い申し上げます。

核融合科学研究会ニュース
第40号（2009年5月）

融　　會

編集・発行
核 融 合 科 学 研 究 会

〒509-5292　岐阜県土岐市下石町322-6
TEL 0572－58－0622／ FAX 0572－58－0626
E-mail：yu-kwai@tcp-ip.or.jp
URL：http://www.nifs.ac.jp/yu-kwai/index.html